

資料1 「キャッチバレーボール①～③」のルール

基本	<p>場：バトミントンコート</p> <p>ネットの高さ：150 cm～170 cm</p> <p>ボール：ケンコートリムボール、スマイルボール、バレーボールから選択。</p> <p>人数：1チーム6～7人、コートには3人が入る。ローテーションを行い、全員がゲームに参加する。</p> <p>基本ルール：後衛が1回で返球してはいけない。</p>
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべてボールは両手でコントロールする。</li> <li>・サーブはコート内から投げ入れる。(易しいボール。サービスの精神。)</li> <li>・1st レシーブはワンバウンドしたボールをキャッチする。</li> <li>・キャッチとスローでボールをつなぎ、コート内の全員が触球し3回で相手コートに返球する。</li> <li>・3本目は両手で相手コートに投げ入れる。その際、アタックラインよりも後ろに入れる。アタックラインよりも前に落ちた場合はアウト。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべてボールは両手でコントロールする。</li> <li>・1st レシーブはノーバウンドでキャッチする。</li> <li>・その他キャッチバレーボール①と同じ</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3本目の触球は投げ入れではなく、アタックヒットして返球する。</li> <li>・1st レシーブはワンバウンドしたボールをキャッチする。</li> <li>・その他キャッチバレーボール①と同じ</li> </ul>

資料2 ルールの変化に伴って必要な技能がどのように変化するか(例)

ルール	→	技能
ボール	→	トリムボール(写真1) … 柔らかい ゆっくり
	→	スマイルボール(写真2) … 少し速い
	→	バレーボール(写真3) … 速い 硬い 痛い
キャッチOK	→	ボール操作 易しい 意思決定 易しい、ゆとりがある
1バウンド可	→	ボール操作 易しい ボールを持たないときの動き 増える
1バウンド不可	→	ボール操作 難しい ボールを持たないときの動き とても難しい
ネットの高さ 低い	→	ボール操作 易しい 簡単すぎる?
ネットの高さ 高い	→	ボール操作 難しい 身長による有利・不利が生まれる
アタックヒットあり	→	ボール操作 難しい でも技能向上の可能性がある
全員が触って返球する	→	意思決定 易しい 全員がボールに触ることができる
人数が増える	→	意思決定 難しい ボールに触らない人が生まれる 攻撃に参加できる人数が増え、工夫の余地が生まれる



写真1 ケンコートリムボール



写真2 ミカサ スマイルボール



写真3 ミカサ バレーボール